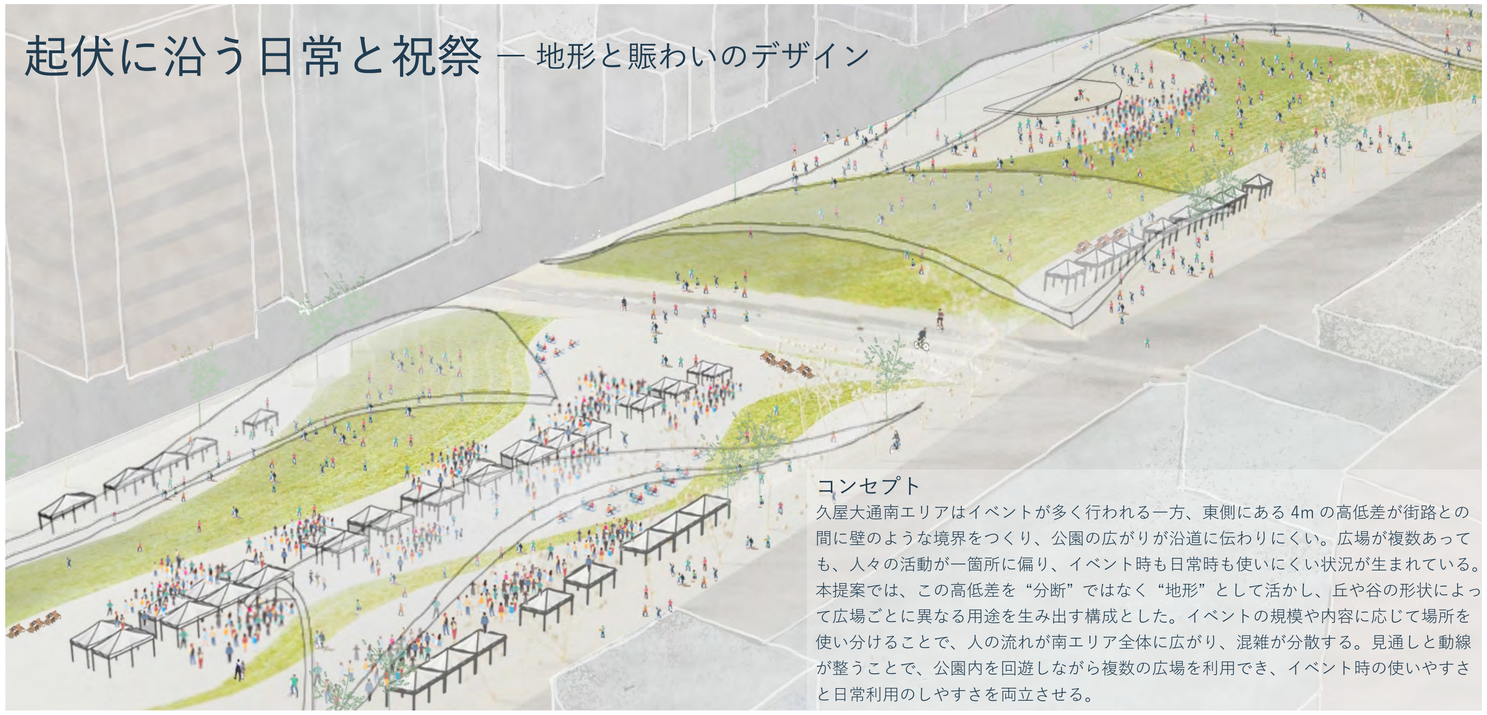
起伏に沿う日常と祝祭 ― 地形と賑わいのデザイン



コンセプト

久屋大通南エリアはイベントが多く行われる一方、東側にある 4m の高低差が街路との間に壁のような境界をつくり、公園の広がりが沿道に伝わりにくい。広場が複数あっても、人々の活動が一箇所に偏り、イベント時も日常時も使いにくい状況が生まれている。本提案では、この高低差を“分断”ではなく“地形”として活かし、丘や谷の形状によって広場ごとに異なる用途を生み出す構成とした。イベントの規模や内容に応じて場所を使い分けることで、人の流れが南エリア全体に広がり、混雑が分散する。見通しと動線が整うことで、公園内を回遊しながら複数の広場を利用でき、イベント時の使いやすさと日常利用のしやすさを両立させる。

1 南エリアの偏りのある賑わい

南エリアの賑わいは、日常的な通行量や常設機能よりも、イベント開催によって一時的に生まれるエネルギーに大きく支えられている。特に広場でのフェス、マルシェ、季節催事、商業イベントなどが人を強く引き寄せ、このエリア特有の“賑わいのピーク”を形成している。一方で、イベントがない時間帯には広場の利用が限定的となり、空間の広さに対して人の滞留が少ないため、閑散とした印象が際立ってしまう。こうした“イベント時のピーク”と“日常の谷”という利用の偏りが、このエリアにおける賑わいの大きな特徴となっている。

日本ど真ん中祭り（来場者数：数十万人）

2 分断するような壁と植栽

久屋大通公園南エリアは、密生した樹木による見通しの悪さに加え、東側道路との約 4m の高低差によって公園と道路が分断されている。東側からは階段を上ってアクセスする必要があり、回遊性は限定的で、公園外とのつながりが弱い。また、東側には擁壁感が強く、公園内がどれだけ賑わっていても、その様子が外側から視認しにくい構造となっている。

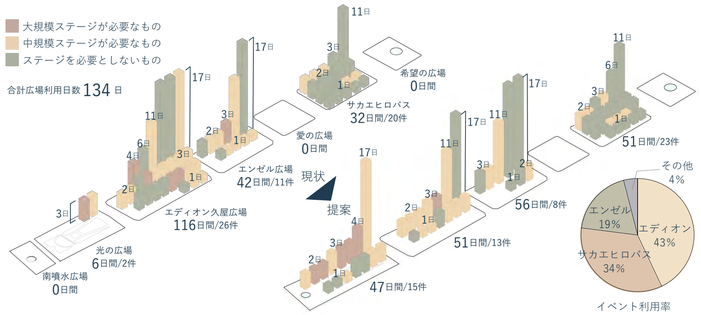
東側からみた様子

3 現状のイベント利用状況

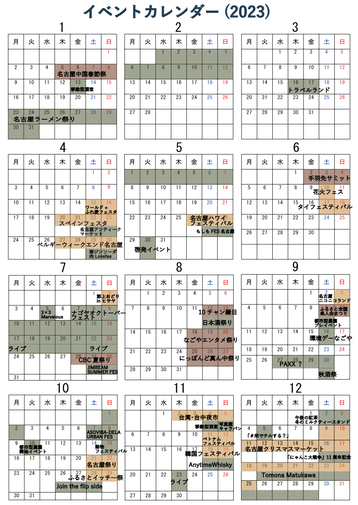
現状、南エリアのイベント利用には大きな偏りがあり、一部の広場だけが賑わい、光の広場のようにイベント可能でありながら十分に活かされていない場所も存在する。そこで南エリア全体に賑わいを広げることを目的に、規模・内容に応じた広場の再編を行った。イベント運営では、ステージの有無や大小といった“設備状況”が重要なため、イベントを〈大規模ステージ〉〈中規模ステージ〉〈ステージ不要〉の 3 つに分類し、それぞれに適した広場配置を計画した。

また、南エリアでは年間約 120 日がイベント、約 120 日が設営・撤去、残り 120 日が日常利用だが、設営・撤去が週末前後に長くかかり、公園を自由に使える日が大きく制限されている点が課題である。そこで、公園内に必要な設備を恒常的に整え、準備期間を削減し、開催日数の拡大と日常利用の回復を同時に目指した。

設営準備の様子



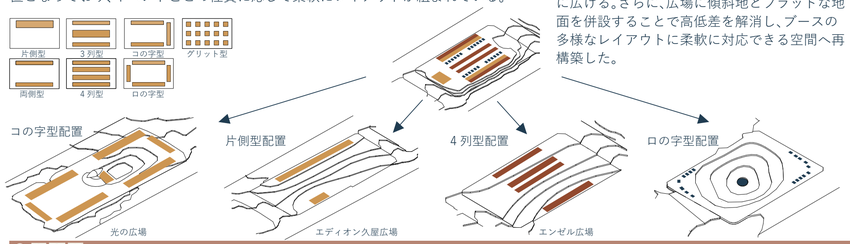
イベントカレンダー (2023)



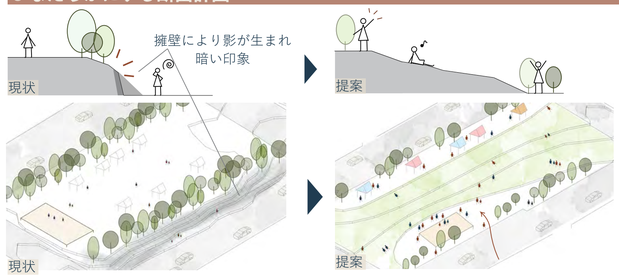
4 広場の使われ方のパターン

南エリアで行われるイベントは 7 種類のブースレイアウトが確認できた。それぞれは、イベント規模や来場者の動線、空間の使い方といった特性に合わせて最適化された配置となっており、イベントごとの性質に応じて柔軟にレイアウトが組まれている。

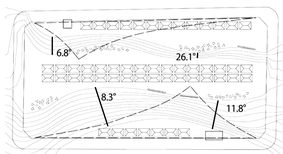
1 つの広場に集中していたイベントを南エリア全体に分散させ、偏っていた賑わいを公園全体に広げる。さらに、広場に傾斜地とフラットな地面を併設することで高低差を解消し、ブースの多様なレイアウトに柔軟に対応できる空間へ再構築した。



5 なだらかにする断面計画



6 日常利用するための地形の傾斜



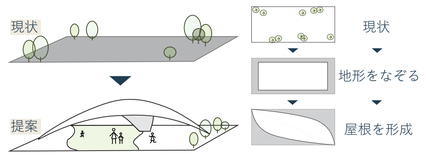
敷地内に 6.8°、8.3°、11.8°、26.1° といった多様な勾配の丘を配置し、イベントがない日にも“地形を楽しむ広場”として機能するようにした。ゆるやかな傾斜は座る・寝転ぶ・ピクニックといった穏やかな利用を生み、中程度の斜面は遊びや軽運動の場に、急斜面は眺望や小さな観覧席として働く。異なる角度の丘が連続することで、広場はイベント時以外でも単なる平場ではなく、歩く・佇む・遊ぶ・眺めるといった多様な行為を自然に誘発する“変化ある日常の風景”へと更新される。

6.8°の傾斜
ひとが腰を下ろしたくなる
歩く

11.8°の傾斜
寄りかかるのにちょうどいい
遊ぶ

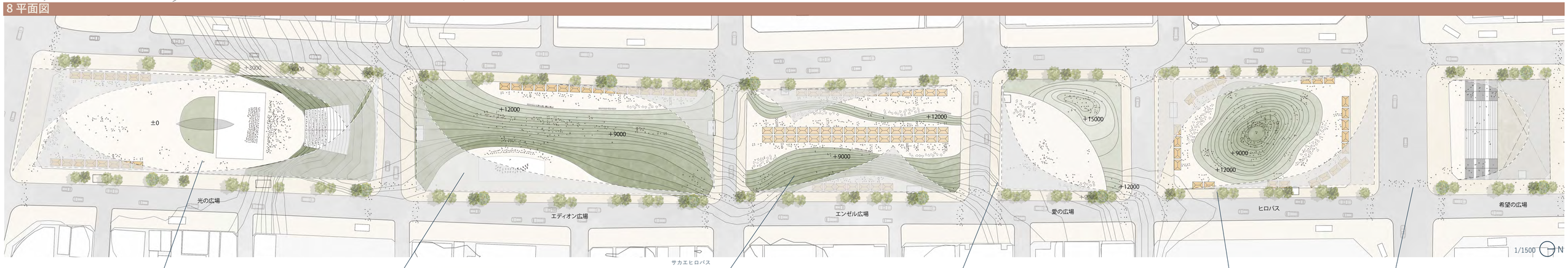
26.1°の傾斜
寝ころびやすくなる
眺める

7 人々が滞留する屋根



もともと何もなく、ただ広く舗装され道路の延長のように扱われてきた。広場は通り抜ける人の動きだけが強く、滞在の余白がほとんどなかった。そこでこの場所に屋根をかけ、高さと輪郭を与えることで、人が立ち止まり、座り、集まりたくなる環境をつくり出す。
雨や日差しを和らげる穏やかな覆いが生まれることで、通過動線だった広場が、ゆっくりと時間を過ごせる都市の居場所へと変わっていく。

8 平面図



光の広場 ―大ステージ―
矢場町に続く大階段を最大限に生かすために、階段を観客席として使える大ステージを設けた。噴水広場と接続することで、広大な平地を必要とする企画やスポーツイベントに対応できる広場を計画した。

エディオン広場 ―小ステージ―
北西から南東に続く高低差を読み取り、南東の角に小ステージを設けた。周囲の地形に合わせてなだらかにつなぐことで、緩斜面が自然と人をとどめ、地形そのものが観客席となる広場を計画した。

エンゼル広場
西から東にかけて続く高低差をなだらかにつなぎながらも、間に平地を設けることで、イベントスペースを確保。緩斜面は人が自然に腰掛ける場所となり飲食スペースにもなる。

愛の広場
他の広場に比べて小さく、もともとイベントが行われていなかったこの場所は、あえてイベントを行わない静かな広場を計画した。賑わいのある広場とは異なる質の居場所を提供する。

ヒロバス ―センターステージ―
広場の中心を谷状に形成し、センターステージを設けた。周辺の平地にはテントを配置し、ステージでのイベントと物販・飲食を同時に展開可能とする。緩斜面は自然な観覧席として機能しストリートイベント型広場を計画した。

希望の広場
広場中央に大きな開口を設け地下街とつなぐことで賑わいを南エリアに引き込むように計画した。地上と地下をつなぐことで、人の流れが自然に広場へ集まり、広場全体の活気を広げる場となる。